

# Un jour



アンジュールはフランス語で「ある日」という意味。一人ひとりの「ある日」を紡いでいきたいという願いを込めた情報紙です。

## 特集 1

### 青森市男女共同参画推進表彰 受賞者決定!



『青森市男女共同参画推進表彰』の受賞者（左：特定非営利法人あおもり男女共同参画をすすめる会・理事長 千田晶子氏 右：白井壽美枝氏）と小野寺晃彦市長（中央）

### 青森市男女共同参画推進表彰とは…

青森市は、平成30年4月から施行した「青森市男女共同参画推進条例」において、本市の男女共同参画の推進に貢献している市民等を表彰し、その取組を周知することで、男女共同参画意識の醸成及び男女共同参画に関する取組を推進することとしています。

### 特集 2 何からはじめればいいのか？何が必要？ 女性のための起業応援セミナーを開催しました！

#### 「男女共同参画都市」青森宣言

私は私を大切に思うのと同じ重さで  
あなたを大切に思う

性別を超え  
世代を超え  
時代を超え  
人と協調し 人を信頼できる  
誇り高い人間でありたい

すべての人の自立と平等をめざして  
青森はここに「男女共同参画都市」を宣言します

平成8年10月22日 青森市

## 輝きびと

日本プロフェッショナルダンス競技連盟 (JCD) 会員  
ストレッチサークル 指導者

### 若山 むつ子 さん

ワンツィ、ワンツィ。青森市立佃小学校の視聴覚室から元気なかけ声が聞こえてくる。  
ストレッチサークルで指導者を務める若山むつ子さんの声。このサークルが誕生したのは平成12年。空き教室を利用して、子育てに忙しい女性たちの運動不足と健康維持を目的に開設された。その活動は今年で18年目を迎える。



若山さんは、幼少時代からクラシックバレエに取り組み、現在は社交ダンスのエキスパート。スタンダードB級、ラテンA級選手のライセンスを持ち、大会にも参加している。  
また、小学校でのストレッチサークルのほかに、自分で立ち上げたストレッチサークルやお茶と着付けの指導者として毎日大忙し。そんな元気な若山さんに聞いてみた。

18年もの長い間、小学校でのストレッチサークルを継続できた秘訣は何でしょうか？

「皆がストレッチをすることで、少しずつ元気になる姿を見てきたからかな」と笑顔で、「一回あたりの時間は90分。その時間を同じ目的を持った仲間が、同じ空間で過ごすだけで、ただ教えるのではなく町内の方や、小学生の子どもの関わり（クラブ活動でストレッチの指導）を意識しながら、自分へのプラスにもしてきた」と話す。「最大のポイントは無理をしない、続けること」と若山さん。

「その時々体調や状況に合わせて、自分の体がどうしたいのか見極めることを意識している。今日は、必ずこれをしようと力まず、リラックした状態を自分も心がけ、生徒さんにも勧めてきた」

小学校のサークルの生徒さんからの言葉で最もうれしかったことは？

「自分の体の状況がわかって、固まった体がほぐされ体調がよくなった、とか、ストレッチの後はスッキリして気持ちがいいフレッシュされる言葉」

肩肘はらずに気楽に参加できることが子育てや仕事に励む女性たちから支持され、生徒さんの一人は「ママ友たちとおしゃべりができるし、体も楽になって何よりも楽しい」と語る。

生徒を楽しく元気にする若山さん自身は、学ぶことが好きで興味を通して、ライフスタイルを切り開いてきた女性である。ほっとするのは「お風呂からあがってベランダで星空を眺めている時」…。

チャームングでちょっぴりロマンチスト。

### 青森市子ども会議フォーラム 2018 「FOR CHILDREN ～小さな声を大きな力に～」 子ども会議とーくいべんと 人形劇「女の子だから、男の子だから、～しなさい」



平成30年11月17日に開催された青森市子ども会議フォーラム2018「FOR CHILDREN ～小さな声を大きな力に～」において、子ども会議委員が、学校や家庭における身近な疑問を朗読劇と人形劇で表現し、その解決に向け来場者と一緒に話し合いました。「女の子だから、男の子だから、～しなさい」と題した人形劇は、テーマ選びから脚本・人形制作まで全て子ども会議委員が自らの子どもたちが固定的性別役割分担意識について考える機会となりました。

#### <発行>

青森市 市民部 人権男女共同参画課  
〒030-8555 青森市新町 1-3-7  
☎017(734)2296 FAX017(734)5765  
<編集スタッフ>  
倉島恵美子・蝦名晶子（特定非営利活動法人あおもり男女共同参画をすすめる会）、  
堀内美穂（NPO法人ウィメンズネット青森）、  
千代谷直美（企画集団プティジュール）

※転載ご希望の場合はご連絡ください。

#### ●カダール託児室●

青森市男女共同参画プラザ「カダール」での催事や青森市民図書館の利用のほか、中心市街地での買い物や通院などの時にも安心して利用できる施設です。  
【託児時間】 9:00～21:30  
（毎月第2水曜日と12/29～1/3を除く）  
【対象】 1歳6か月～就学前  
【料金】 1時間600円（最長3時間）  
【お問合せ】 ☎017(776)8800  
※前日までに要予約

#### ・・・青森市の男女共同参画拠点施設・・・

- ◆青森市男女共同参画プラザ「カダール」  
（青森市新町 1-3-7 アウガ 5・6F）  
【開館時間】 9:00～22:00  
【休館日】 毎月第2水曜日・12/29～1/3  
【お問合せ】 ☎017(776)8800 FAX017(776)8828
- ◆青森市働く女性の家「アコール」  
（青森市勝田 1-1-2）  
【開館時間】 9:00～22:00  
【休館日】 毎月第2日曜日  
【お問合せ】 ☎017(723)1700 FAX017(723)1700

# 青森市男女共同参画推進表彰の受賞者が決定！！



宣言文を朗読した青森市立佃中学校の小野隼矢さん(手前)と佐藤そらさん(奥)

平成30年10月6日、中学生による「男女共同参画都市」青森宣言の朗読から始まった青森市男女共同参画推進月間オープニングイベント～青森市男女共同参画推進条例制定記念～において、男女共同参画の推進に功績のあった市民等をたたえる第1回「青森市男女共同参画推進表彰」の表彰式が行われました。

表彰式後には、佐藤恵子さん(条例検討委員会委員長・特定非営利活動法人ウィメンズネット青森 理事長)をコーディネーターとして、小野寺晃彦市長を交えて受賞者のお二人と今後の取組などについてトークセッションを開催。

個人の部で受賞した白井壽美枝さんからは「男女共同参画という言葉すらなかった時代を活動してきた仲間達の努力をこれからも、受け継いで伝えたい」

事業者の部で受賞した男女がともに働きやすい、活動しやすい環境づくりを推進してきた特定非営利活動法人「あおり男女共同参画をすすめる会」の理事長・千田晶子さんからは「事業者として、皆が働きやすいようにオーダーメイドの雇用を考えていきたい。また、ジェンダー平等と女性のエンパワーメントを念頭において次の人材育成に取り組んでいきたい」

小野寺市長からは「これからも女性の貴重な意見を取り入れ、市の附属機関の女性委員登用率の向上や課長相当職以上に占める女性の割合を増やすことなどに取り組んでいきたい。」「青森県は女性社長の数が日本で一番多い。女性の目線を大事にしていきたい」

佐藤恵子コーディネーターからは「青森市に条例ができたことは画期的なこと、条例を根拠に着実に青森市の男女共同参画を進めていただくことが青森市の大きな力になると思う」とありました。



小野寺晃彦市長を交えたトークセッション

## 子連れ大歓迎！赤ちゃんの泣き声が聞こえる楽しい講演会

イベントの最後にはジェンダー論の研究者で東京大学大学院教授の瀬地山角さんによる講演がありました。「笑って考えよう仕事のこと、家庭のこと、未来のこと～男の家事が社会を救う！」と題された講演では、瀬地山さんご自身の子育ての経験を踏まえ、「子育てで男にできないことはない」とし、共働き世帯の男性の育児関連時間の少なさを捉え、「男性の著しく短い家事時間はもはや社会的に問題にすべき水準」であると語られました。また、男性が一人で妻子を養うことがとても大変な現代においては、「男性の家事が、女性の就労を支え、自分の命を救う」とし、最後に「個人差は性差を超える。性別にかかわらずその個性と能力を發揮し、新しい社会を誘導していこう」と熱く講演されました。



東京大学大学院教授・瀬地山角氏の講演

## 【個人及び団体の部受賞者】 白井 壽美枝 様

平成8年から本市における男女共同参画推進事業の第一歩となった「男女共同参画情報紙アンジュール」の企画編集を長く務めながら、「青森市男女共同参画都市宣言」実行委員、「青森市男女共同参画協議会」委員、そして全国から3,000人を超える参加者で国内最大級の会議である「日本女性会議2002あおり」では実行委員長を務め、全国に本市の取組を発信し、会議を成功裏に収めました。

平成11年には「青森市男女共同参画社会づくりをすすめる会」を発起人として立ち上げ、平成17年には「特定非営利活動法人あおり男女共同参画をすすめる会」を設立し、平成29年度まで顧問を務めるなど現在に至るまでリーダーとして団体を牽引してきました。

また、平成29年6月には「特定非営利活動法人あおりダイバーシティ」を設立し、事業を積極的に展開するなど、現在に至るまで22年間にわたり、男女共同参画の推進に努めています。



## 受賞者のコメント

たくさんの方とご一緒し、そして支えられてきた22年間です。第1回の表彰に選んでいただきましたことを光栄に、大変うれしく思います。条例ができて制度は一歩進みました。日本で8番目に宣言した青森市で、男女共同参画社会を実現していきましょう。

## 【事業者の部受賞者】 特定非営利活動法人あおり男女共同参画をすすめる会 様

平成17年から男女共同参画社会の形成の促進を図る活動に取り組んでおり、市民も参加できる「総会記念講演」や「茶話会」の開催は、市民の男女共同参画推進の意識啓発やジェンダー平等、エンパワーメントについて理解を深めるための活動となっています。

また、乳がん検診啓発活動「ピンクリボンキャンペーン」の実施や、カダールフェスタ(市民活動企画展)に全部会(企画クリエイティブ会、心とからだの健康を考える部会、シネマ部会、研修・交流部会)が毎年参加するなど、会員が一丸となって様々な形で男女共同参画にアプローチしています。

雇用における取組として、平成29年から「入社後6か月から育児・介護休業等取得できる制度」を確立、平成30年から「年次有給休暇の時間単位付与に関する協定書」を締結し、男女がともに働きやすい、活動しやすい環境づくりと、仕事やその他の活動と家庭生活との両立支援の取組を進めています。



## 受賞者のコメント

設立当初からの取組が認められ、大変うれしく思います。これからも男女共同参画社会の実現に向け、部会を中心とした発信活動をすすめるとともに、事業所としては良い制度を積極的に取り入れ、スタッフが気持ち良く働くことができる基盤づくりを一層心がけ、進めていきたいと思っています。

何からはじめればいいのか？

何が必要？

## 女性ための起業支援セミナー

平成30年10月29日開催

起業に関心がある方、起業を予定している方、起業を支援する業務に携わっている方を対象に青森駅前にある青森商工会議所 AOMORI STARTUP CENTERで「女性ための起業支援セミナー」が開催されました。青森県では、経営者の10人に1人が女性経営者であり、女性社長の割合が日本一です。(2018年帝国データバンク調べ)その理由として、経営者である親族から事業を引き継ぐ「同族継承」の割合が高いことが挙げられますが、依然として、女性は子育てや介護、夫の転勤などの理由から、自分の思い描くキャリア形成が難しいことが多いのも現状です。

また、日本の中堅企業における「経営幹部の女性比率」は世界の中でも特に低く、女性が企業の経営に積極的に関わることができない状況です。これは、女性ならではの感性を活かした商品やサービスが十分に提供されないという結果をもたらしているとも言えるのではないのでしょうか。私たちの生活を充実させ、豊かにしていくためには、女性が社会で活躍することが必要不可欠です。セミナーではIM(インキュベーション・マネジャー)として起業をサポートしている大崎陽一さんから「女性×起業×あおり」夢を目標に変えて」の講演がありました。講演では、夢を実現するための方法として、①実行を決意 ②構想 ③計画 ④資金調達 ⑤起業の5段階を紹介。抽象的でゴールがない「夢のままの人」、市場調査を自分の目と足で確認するなど明確なゴールがある「目標にした人」の違いを説明。

起業の失敗ケースの紹介、また誰が見てもわかりやすい事業計画書作成の大切さなど具体的な起業のコツが語られました。

その後、大崎さんを交えて、女性起業家3名、雑貨店LaCambre(ラ・クレール)代表 木村昌世さん、Hair Salon百花堂代表 久慈立子さん、米ぬか酵素風呂青のしずく店長 三上信子さんがパネリストとなってトークセッションを開催し、それぞれの体験談が語られました。

【起業のきっかけ】  
三上さん「自分の体調が優れず、酵素風呂と出会って改善した。多くの困っている人に酵素風呂の良さを教えたかった」

久慈さん「勤務先の美容院が移転することとなり、自分のお客さん達から新町に残ってほしいと応援されて決意」  
木村さん「起業するとは思っていなかったが、店舗の閉店がきっかけで、仲間と二人で決意」

【起業の満足度】  
3人とも大満足で、「私の店に来てくれて本当にありがたうと心から思う」「満足して帰るお客さんの笑顔に会える」「楽しい。仕事をやらされている感がない」

【起業に苦労したこと】  
「計画していた金融機関から融資を断られ、起業を諦めようと思っていたが、IMの三澤さんに相談し、別の金融機関からの融資が決定した」「母親が猛反対し、説得まで時間がかかったが母に理解してもらい、店舗の名前を付けてもらった」「二店舗目は収益を上げているが二店舗目はなかなか軌道に乗らない」

最後に大崎さんから「起業するには、矢面に立つ覚悟が必要」。体験に基づく起業のアドバイスとして、「お客さん、従業員、家族、支援者など、起業は色々な人に支えられている。感謝の気持ちを忘れずに」とのお話がありました。

パネリスト3名の「起業して大満足」との言葉が印象に残り、参加者はパネリストから語られる体験に基づいたアドバイスを熱心に聞いて、メモを取っていました。

